

加賀の人待ち草

松下 幹生

路地裏の ひなびた酒場の 片隅で
一人寂しく 注ぐ酒
秘かに流れる ブルースに
昔のあの娘が よみがえる
薄暗い 灯りの中に
金沢（この）街が…
あの頃は 楽しかったと 思い出す

君の夢
都会（まち）でデザイン 勉強（やりたい）と
金沢（ここ）は優しい 街だけど
光るセンスが 欲しいのと
加賀の伊吹を 織り交ぜたいと
意気込み君は 出ていった
金沢（この）駅を
君が去り 便りも届かず 音信不通（とだえた）

10年後 香林坊の 片隅で
一人手酌の 酒に酔い
止まった時間の 傷舐める
カウンターには 黒百合1輪
惨めな僕を 見つめてる
逢いたい… 君に…
鼓の駅で 帰るはずない 君を待つ